

環境経営レポート 2025

株式会社ジュンコーポレイション

Period covered 2025/1/1 ~ 2025/12/31

Release date 2026/2/26



環境省

エコアクション21

認証番号 0001273

事業所 : 株式会社ジュンコーポレーション
 〒 379-0211 群馬県安中市松井田町上増田53-1
 ☎ 027-393-1375 FAX 027-393-4331 URL <https://www.jun-corporation.com>

代表者 : 代表取締役 小板橋 義和
 管理責任者 : 品質管理課 宮田 延之
 副管理責任者 : 製造課 金井 貴徳
 事務局 : 総務課 多胡 美千子
 環境委員 : 技術課 熊谷 俊明
 : 製造課 高橋 千穂

事業内容 : プラスチック射出成形製品及び金型の製造・販売
 ガスインジェクションやヒートアンドクールの特許技法が得意

事業規模 : 資本金 1,000万円 売上高 6億円 社員数 35名 敷地面積 2,435㎡ 建物面積 1,539㎡

会社沿革



- 企業理念 ① 諸法令を守り、社内外において正直な会社でありたい。
② 会社に働く人々が能力開発につとめ、一人一人全員が幸せである会社でありたい。
③ あらゆる人に思いやりをもち あらゆる部門間において気を配り (以下省略)

環境経営方針

株式会社ジュンコーポレイションは、プラスチック製品の製造において環境保全活動が重要な課題であると認識し、積極的に取り組みます。

行動指針

1. 全社員が環境保全活動に参加し、継続して改善します。
2. 当社の事業活動に関連する環境関連法規を遵守します。
3. 当社の事業活動に伴う以下の環境負荷の削減に取り組みます。
 - (1) 二酸化炭素排出量の削減
 - (2) 廃棄物排出量の削減
 - (3) 水使用量の削減
 - (4) 化学物質使用量の削減
4. 当社の製品・サービスにおいて、顧客満足を向上します。
5. 代表者が環境保全活動の成果を見直し、継続して改善します。
6. 当社の環境方針は全社員に周知し、一般に公開します。

改定 2021年1月19日
制定 2006年6月19日
株式会社ジュンコーポレイション
代表取締役 小坂橋 義和

1 対象範囲

全社員が環境保全活動に参加し、継続して改善しています。

EA21最高責任者

EA21事務局
【総務】
マニフェスト管理
浄化槽管理

【技術課】
BCP
設備保守

【営業課】
売上、契約書
資格者リスト

【生管課】
消防責任者
SDS入手
製品在庫

【生管課】
SDS入手
原料在庫

【生管課】

EA21環境管理責任者
【品管課】
PRTR法、SDS管理

【品管課】
電力量

【品管課】
クレーム情報

【品管課】
不良率

EA21副環境管理責任者
【製造課】
歩留率

【製造課】
稼働率

【製造課】
ガソリン・軽油給油量
設備保守

EA21環境委員
【技術課】
設備保守

EA21環境委員
【製造課】
灯油使用量

【製造課】
売却材

【製造課】
照度

【製造課】
水使用量、騒音

【製造課】
廃棄物

整理・整頓・清掃 及び インドネシア語マニュアル制作

	役 割
【最高責任者】	環境管理責任者及び、必要な責任者を任命する。 該当責任者には、現在の責務に関わりなく、兼任で責任と権限を明示する。 エコアクション21の構築・運用・維持に必要な経営諸資源（人材・資金・機器設備・技術技能を含む）を準備・拡充する。 環境経営方針を制定する。 エコアクション21の構築・運用に関する情報を収集し、環境経営方針や環境目標、システム全体の見直しを行い必要に応じ改訂を指示する。
【環境管理責任者】	エコアクション21に関する経営資源を合理的・効果的に運用し、目的を達成するために環境委員会を運営する。 エコアクション21の構築と運用を円滑に行い、最高責任者による見直しのための情報を最高責任者に提供する。
【副環境管理責任者】	エコアクション21の構築と運用を円滑に行う為に、環境管理責任者への助言や構築・運用に関する情報を提供する。
【事務局】	事務局として、環境管理責任者を補佐し、エコアクション21に関する実務全般を所管する。
【環境委員会】	環境管理責任者・副環境管理責任者・事務局・環境委員で構成し、年2回環境管理責任者が招集する。環境目標の設定、環境活動計画の策定及び進捗管理について協議する。環境管理責任者が必要と認めた者は出席することが出来る。

昨年度の課題と本年度の改善計画 Plan

更新された法規はないか、新たに追加すべき法規はないか再確認し、最新のものとなっているよう責任をもって管理する。

本年度の改善実施 Do

法令自体の改定日を記し、必要な管理を実施する。

環境関連法規	管理内容 Plan	実施状況 Do	遵守 Check
自動車NOx・PM法 2024.4.1	尿素SCRシステムの装着及び 八都県指定粒子状物質減少装置の装着	2.0tトラック 尿素SCRシステム装着済	○
大気汚染防止法 2025.6.1	粉塵特定施設【強化プラスチック製品の製造の用に供する成形機】を知事へ届出	16台の全成形機 届出済 最終届出日2025.2.6. (5,13号機)	○
フロン排出抑制法 2025.6.1	7.5Kw未満のエアコン (簡易点検4半期に1回以上) 7.5Kw以上のエアコン (定期点検3年に1回以上)	7.5Kw未満のエアコン (5台) 簡易点検4半期に1回実施 (自主点検) 7.5Kw以上のエアコン (2台) 定期点検2024.3.15実施	○
浄化槽法 2025.6.1	11条検査 1回、点検年2回実施	11条検査2025/1/14実施済 点検2025/5/8、9/11実施済	○
騒音規制法 2025.6.1	朝 6～8時 50dB 昼間 8～18時 55dB 夕 18時～21時 50dB 夜間 21時～6時 45dB 成形機、特定施設設置届出	規制値以下であった。 16台の全成形機 届出済 最終届出日2024.4.26 (5,13号機) 近隣住民からの苦情無	○
振動規制法 2025.6.1	昼間8～19時 70dB 夜間19～8時 65dB 成形機、特定施設設置届出	規制値以下であった。 16台の全成形機 届出済 最終届出日2024.4.26 (5,13号機)	○
悪臭防止法 2015.8.1	臭気規制基準に準ずる 苦情が発生した際、安中市から測定される	近隣住民の苦情無し	○
自動車リサイクル法 2025.6.1	自動車リサイクル料の支払い 2.0tトラック、アウディ、パレット、ダッジ、ハイエース	社用車5台全て対応済	○
廃棄物処理法 2025.6.1	・廃棄物の保管・整備・管理 産業廃棄物に対するマニフェスト管理 ・毎年6/30までに1年間のマニフェストの交付状況を 知事に報告	一般廃棄物と産業廃棄物の分別処分済 マニフェスト発行100%実施 2025.6.30 報告済	○
P R T R 法 2015.8.1	第一種指定化学物質の排出量の把握及び届出 1000kgを超える場合届出	アンチモン排出量 615.77kgの為届出 不要	○
労働安全衛生法 2026.1.1	健康診断 日勤 (1回/年)、夜勤 (2回/年) クレーン定期自主点検 (1回/年) フォークリフト定期自主点検 (3台)	日勤者:2025/10/24実施 夜勤者:2025/4/1～9、2025/10/24実施 2025/8/19実施 (クレーン2基) 2025/3/13、4/22、5/8実施 (合計3台)	○
高圧ガス保安法 2025.10.1	高圧ガス発生装置2台のメーター及び安全弁の校正と自主点検	2025/3/8、12/24メーター、安全弁の校正実施 自主点検毎月実施済 (定期点検記録表)	○
消防法 2025.6.1	避難訓練年1回、 消防用設備等点検 (1回/3年報告)	2025/8/18 火災避難訓練実施済 2025/11/27 消防設備等点検済	○
工場立地法 2025.6.1	工場敷地面積の15%確保	23.8%確保済 敷地面積 (3962㎡)、緑地面積 (941㎡)	○

環境関連法規の遵守 Check

環境関連法規の全項目を実施し、遵守しています。
近隣住民からの苦情及び訴訟等の問題は、ありませんでした。

社長の評価・指示 Action

定期的に法規を確認し、変更点や追加事項の有無を確認し、届出漏れや実施・点検漏れの無いように管理してください。



昨年度の課題と本年度の改善計画 Plan

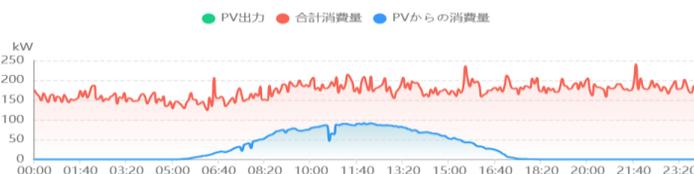
①太陽光発電の増設 ②デマンド設定を下げる ③休止中の粉碎機や乾燥機の電源OFFを推進し、電力使用量削減を行う。

本年度の改善実施 Do



太陽光パネル増設

①工場屋根設置の太陽光発電107kWに、倉庫屋根にも太陽光発電33kWを増設。②デマンド設定を230kWh → 220kWhに低減。③休止中の粉碎機や乾燥機の電源OFFに関しては技術課を中心として製造課と協力し進めた。



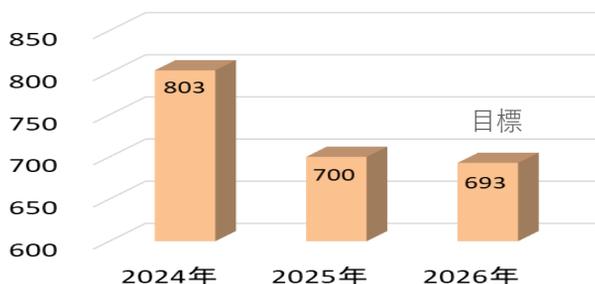
二酸化炭素排出量の削減評価 Check

①太陽光発電の増設により、CO2排出量/売上高は2024年比で12.8%削減となり目標を達成した。2025年2月10日から増設した太陽光発電の稼働により、2024年発電量97.20MWhから2025年発電量112.91MWhと16.2%増加した。②デマンド設定の低減も太陽光発電の恩恵にあずかり警報が鳴ることもなく順調に推移。③粉碎機、乾燥機の電源OFFに関しては随時対応した。

しかしながら灯油に関しては灯油を消費するヒートアンドクール製品の生産数が14.8%減少したにもかかわらず、灯油の使用量は3.5%の減少に留まった。

長期目標 2024年比 2026年まで	短期目標 前年比	(2023年)	2024年	2025年	2024年比 評価
CO2 総排出量 2%削減	CO2 総排出量 1%削減	CO2総排出量=461,457kg-CO2 売上高=551百万円 CO2総排出量/売上高=837kg/百万円	CO2総排出量=400,603kg-CO2 売上高=500百万円 CO2総排出量/売上高=803kg/百万円	CO2総排出量=426,387kg-CO2 売上高=609百万円 CO2総排出量/売上高=700kg/百万円	売上比 12.8%減 ◎
電力 2%削減 (売上対比)	電力 1%削減 (売上対比)	CO2排出量=401,481kg-CO2 (排出係数0.41) CO2排出量/売上高=729kg/百万円	CO2排出量=336,128kg-CO2 (排出係数0.41) CO2排出量/売上高=674kg/百万円	CO2排出量=363,435kg-CO2 (排出係数0.41) CO2排出量/売上高=597kg/百万円	売上比 11.4%減 ◎
灯油 2%削減 (売上対比)	灯油 2%削減 (売上対比)	CO2排出量=48,874kg-CO2 CO2排出量/売上高=88.7kg/百万円	CO2排出量=54,547kg-CO2 CO2排出量/売上高=109.3kg/百万円	CO2排出量=52,658kg-CO2 CO2排出量/売上高=86.5kg/百万円	売上比 20.8%減 ◎
ガソリン 軽油 15,000 (kg-CO2以下)	ガソリン 軽油 15,000 (kg-CO2以下)	CO2排出量=11,041kg-CO2 CO2排出量/売上高=20.0kg/百万円	CO2排出量=9,898kg-CO2 CO2排出量/売上高=19.8kg/百万円	CO2排出量=10,292kg-CO2 CO2排出量/売上高=16.9kg/百万円	15,000 kg-CO2 以下 ◎
LPガス 1,000 (kg-CO2以下)	LPガス 1,000 (kg-CO2以下)	CO2排出量=60kg-CO2 CO2排出量/売上高=0.11kg/百万円	CO2排出量=30kg-CO2 CO2排出量/売上高=0.05kg/百万円	CO2排出量=0kg-CO2 CO2排出量/売上高=0kg/百万円	1,000 kg-CO2 以下 ◎

CO2総排出量/総売上百万



社長の評価・指示 Action

工場全体の年間消費量の約11.5%を太陽光発電でまかなうことができ、経営的にも大きな効果をもたらした。しかしながら、③粉碎機や乾燥機の電源OFFにしたとす証拠が無く、前年との比較やその事実さえも知ることができない。灯油の使用量低減の誤差についても、原因追及がなされていない。頑張りましたは通用しない。数字的根拠や原因追及を期待する。



昨年度の課題と本年度の改善計画 Plan

廃棄プラスチックの再生利用を目指す過程で、①過半数をしめるダンゴ（樹脂ロス）で再生利用出来たのは何%程度か、②業者との交渉により再資源化（売却）出来たのは何%程度か、より詳しい数字を明確にする。

本年度の改善実施 Do

廃棄プラスチックの過半数を占める①ダンゴについては34.5%を再生資源化できている。しかし、②原料の売却に関しては業者との交渉の結果、原料自体の高機能化や高強度化により再資源化が困難になってきている。

改めて、発生原因を見直し廃棄原料を発生させない対策が必要であることを認識した。原料置換の際、最小限で交換する方法のノウハウの共有や異物を混入させない原料の取扱い、または原料輸送経路の清掃の方法など、原点に戻って廃棄原料を発生させない手法を導く必要がある。

廃棄プラスチック		(2023年)	2024年	2025年
ダンゴ	廃棄	3,064	2,791	4,122
	再生	0	1,249	2,170
	割合	0.0%	30.9%	34.5%
原料	廃棄	1,273	1,102	1,664
	売却	8,085	5,701	6,048
	割合	86.4%	83.8%	78.4%

廃棄物排出量の削減評価 Check

廃棄物の総排出量は2024年比53%増加となり目標未達成となった。使用予定で在庫していた粉碎原料が消化しきれない量まで増加した為、売却に回したことが目標未達の主な原因となっている。ダンゴ、廃棄原料、プラごみ等廃棄していた原因を明確にし対策したが、売却原料で引取不可となった原料の増加や売却できない原料の成形品が不良率増加となった事で廃棄量が増えた。

長期目標 2024年比 2026年まで	短期目標 前年比	(2023年)	2024年	2025年	2024年比 評価
廃棄物 総排出量 2%削減	廃棄物 総排出量 1%削減	総排出量 = 42,605Kg 売上比率 = 77.3kg/百万円	総排出量 = 34,762Kg 売上比率 = 69.7kg/百万円	総排出量 = 64,956Kg 売上比率 = 106.7kg/百万円	売上比 53%増 ×

内 訳	2023年	2024年	2025年	売上比
再生資源	紙=41kg 段ボール=262kg 金属（金型）=0kg 金属（スプレー缶）=38kg 再生プラスチック=32,397kg 再生資源合計=32,738kg 売上比率 = 59.4kg/百万円	紙=251kg 段ボール=394kg 金属（金型）=0kg 金属（スプレー缶）=30kg 再生プラスチック=27,446kg 再生資源合計=28,120kg 売上比率 = 56.4kg/百万円	紙=273kg 段ボール=289kg 金属（金型）=690kg 金属（スプレー缶）=81kg 再生プラスチック=50,123kg 再生資源合計=51,457kg 売上比率 = 84.5kg/百万円	2024年比 49.8%増 ×
焼却・埋立	紙紙 467kg ビニール類 = 125kg 廃棄プラスチック 9,275kg 焼却・埋立合計 9,867kg 売上比率 = 17.9kg/百万円	紙 593kg ビニール類 = 98.5kg 廃棄プラスチック 5,950kg 焼却・埋立合計 6,642kg 売上比率 = 13.3kg/百万円	紙 549kg ビニール類 = 50kg 廃棄プラスチック 12,950kg 焼却・埋立合計 13,549kg 売上比率 = 22.2kg/百万円	2024年比 66.9%増 ×

社長の評価・指示 Action

ダンゴの発生量が多い人物、または発生量の多い製品は何なのか、まずは明らかにする必要がある。それを解決してください。

再生材を使用せずに生産することが何度も見受けられた。しっかりとリサイクルすることを、改めて教育し直してムダのないよう生産することを願う。

廃棄原料の発生を無くすことを念頭に対処願います。





昨年度の課題と本年度の改善計画 Plan

工場内で使用している金型温調機及びボイラーの水は貯水槽により循環しているためロスは少なく、その他は生活用水として使用している。ボイラーは特殊技術であるヒート&クール（金型を急加熱・急冷却するシステム）で使用するためのものであるが区別して使用量を見極めるのは難しい。生活用水はトイレや手洗いの水が主で一般的な工場に比べれば圧倒的に少量である。金型・温調機からの水漏れ早期発見、早期対処が定着しつつあるが、日常点検で毎日チェックし水漏れを未然に防ぐことを継続実施する。クーリングタワーのポンプから水漏れが目立つ時がある、こちらは月一で確認・調整を行う事で水漏れを防ぐ。

本年度の改善実施 Do

日常点検で金型と温調機の冷却水通水・水モレ確認実施。月次点検でクーリングタワーポンプの水漏れ確認・調整実施。2025年もグランドパッキンの締付調整のみで水漏れを防止していたが締付けしりが少なくなってきた箇所は2026年に交換、調整を行う。



水使用量の削減評価 Check

2024年比で15.6%削減となり目標達成となりました。2026年は2年毎の放水訓練及び貯水槽の清掃を実施する計画で水の使用量は増加となりますが、前回の2024年に対し同等以下になるよう削減する予定です。

長期目標 2024年比 2026年まで	短期目標 前年比	(2023年)	2024年	2025年	2024年比 評価
水使用量 2%削減	水使用量 1%削減	水使用量 = 1,439㎡ 売上比率 = 2.6㎡/百万円	水使用量 = 1,605㎡ 売上比率 = 3.2㎡/百万円	水使用量 = 1,647㎡ 売上比率 = 2.7㎡/百万円	15.6% 削減 ◎

社長の評価・指示 Action

例年同様に水漏れの早期発見・早期対処を心掛けてください。

(㎡)

水道使用量



昨年度の課題と本年度の改善計画 Plan

購入する全オイル・スプレー・グリス類の製品安全データシートを入手し、RoHS指令で禁止されている10物質（鉛・水銀・カドミウム・六価クロム・PBB・PBDE・DEHP・BBP・DBP・DIBP）が含まれていない状態を維持し、PRTR法でアンチモンの排出量が1,000Kgを超えないよう観測する。

本年度の改善実施 Do

全オイル・スプレー・グリス類の製品安全データシートを100%入手、RoHS指令禁止物質が含まれていないことを確認し、1冊のファイルにまとめて有効期限を3年とした。使用原料のアンチモン含有についてもSDSにて含有量を確認し、排出量を算出した。

化学物質登録一覧表 (RoHS II 指令適合品) 【有効期限 2027.3】

用途	環境調査	名称	メーカー名
油圧オイル	○	スーパーハイランド46	JX日鋼日石エネルギー(株)
金型摺動グリス	○	シンループ スーパーテンブ NO2	新日鐵化学
	○	NS1001 グリース	山一化学工業(株)
成形機グリス	○	MY2	リュウベ(株)
	○	エビノックグリース AP(N)0	JXエネルギー(株)
	○	MP0 (1)	リュウベ(株)
	○	プラスターグリース B3 No2	東洋機械金属(株)
製品洗浄剤	○	スミテックF5スプレーQD	住友潤滑(株)
	○	JUクリーナー改	大伸化学(株)
金型洗浄剤	○	ブレーキクリーナー(HYPER SOLVENT RSE)TAC-122	(株)東洋化学商会
	○	パーツ&ブレーキクリーナー-840	(株)イチノケミカルズ
	○	GPクリーナー	中京化成工業(株)
	○	ライトストッパー	複合資材(株)
	○	モールドブライト	(株)ヤマト商会
	○	バスターマイルド	旭化成(株)



化学物質使用量の削減評価 Check

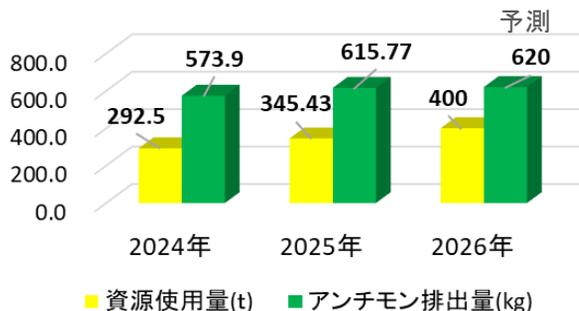
オイル・スプレー・グリス類は、事前に製品安全データシートを入手し禁止物質が含まれない事を確認しているため有害物質ゼロを維持継続している。アンチモン排出量は目標の1000kg未満を維持している。

目標	(2023年)	2024年	2025年	評価
RoHS指令 禁止物質 使用 = 0	有害物質使用 = 0	有害物質使用 = 0	有害物質使用 = 0	使用 0 ○
PRTR法 アンチモン 1000Kg未満	アンチモン排出量=754.3Kg 樹脂原料使用量=380.9t アンチモン量/樹脂量=0.19%	アンチモン排出量=573.9Kg 樹脂原料使用量=292.5t アンチモン量/樹脂量=0.19%	アンチモン排出量=615.7Kg 樹脂原料使用量=345.4t アンチモン量/樹脂量=0.17%	1000Kg 未満 ○

中期の環境経営目標

RoHS指令禁止物質使用ゼロ
PRTR法アンチモン1000Kg未満

資源使用量・アンチモン排出量



社長の評価・指示 Action

化学物質使用制限については、国内のみならず世界各国で法改定がなされる可能性があり、油断せず情報入手に力を入れてください。そういう意味でも有効期限が3年で良いか？ 法改定の都度、確認が必要になるが… 確認しやすいファイルになっているか改めて見直し願います。

顧客満足の向上【展示会出展】

ジュンコーポレイションの技術を確認したい遠方のお客様に、東京ビッグサイトや群馬Gメッセでご紹介できるよう毎年展示会へ出展しています。



顧客満足の向上【印刷のインライン化】

成形と同時に印刷する設備を開発した。インクを使用しないため環境面では大変有効であり、在庫の大幅な削減、リードタイムも30日から15日と効率改善。顧客にはコストメリット、品質の安定と経年劣化からの解放、インクレスのため顧客のリサイクルも可能にする。

2026年から稼働開始する計画であり期待値は大きい。



顧客満足の向上【ジュンチュウ】

森永ハイチュウでノベルティ製作し、ご来社いただいたお客様に差し上げています。



顧客満足の向上【講師：事例紹介】

健康経営・環境経営などの事例を広く公開し、多くの企業に喜ばれています。



顧客満足の向上【クレーム件数】

14件/年発生してしまい目標未達、2026年は10件/年で再チャレンジ

顧客満足の向上【かわら版】

当社の情報「かわら版」です。年4回発行しています、独自技術（ガスインジェクションなど）や社長や社員の情報、近くのおいしいお店など満載でお客様から大変喜ばれています。

春

夏

秋

冬

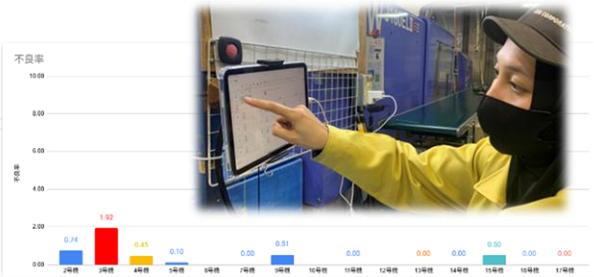
Grid of four newsletters (かわら版) for Spring, Summer, Autumn, and Winter, featuring various articles and images.

かわら版は当社ホームページで公開しています。

5 代表者の見直し

代表者が環境保全活動の成果を見直し、継続して改善します。

2025年 会社方針は『DX化』でした。その取り組みの一部をご紹介します。



【現場の不良率をリアルタイム表示】

品質管理課 青木係長がソフトから構築しました。全成形機の不良発生状況が食堂への通路でリアルタイムに把握でき、早期発見・早期解決に役立ってます。



【カメラ検知導入】

製造課 町田課長が進めたカメラ検知の導入、16カ所のショート検査を自動で行います。作業者の負担軽減になり、見逃しも無くなりました。



【太陽光発電増設 合計 140kwに】

工場の屋根設置に加え、倉庫・食堂の屋根にも太陽光発電を増設しました。消費電力の約11.5%を発電してくれました。さらにエアコンの効率UP！



【保養施設 リゾートホテル】

大企業にどうしても叶わなかった福利厚生…保養施設が無いこと… リゾートホテルの会員となり、勤続年数の多い社員から、感謝を込めて社長からご招待…

全体の見直し（課題とチャンス）

2025年会社方針「DX化」はデジタルトランスフォーメーションの意味を理解できつつあり、クラウドサーバーによる書類の電子保管は順調に進行し、紙による保管は減少傾向にある。仕事のやり方までを変える本来の「DX化」も上記の不良率のリアルタイム表示やカメラ検査などを足掛かりにますます進めたい。太陽光発電では電力費高騰のなか、消費電力11.5%の削減は経営上とても有効であった。挑戦なくして発展なしを感じる。しかしながら、「廃棄物排出量の削減」では53%の増加となり緊急的な課題があった。

来年度に向けて

環境経営方針・目標・計画及び体制について全体的に定着し順調に推移しており、従来通り変更せず継続して実施する。しかしながら、緊急的な課題「廃棄物排出量の削減」については、2026年の会社方針を「原料をムダにしない」と定め、原料ロスの粉碎使用及び必要な量だけ発注するを徹底し、「廃棄物排出量の削減」を実施する。あたりまえのことではあるが油断すると横着するのが人の常である。原料のムダを徹底的に排除することを全社員で実行する。

6 環境経営方針の公開

当社の環境経営方針は全社員に周知し、一般に公開します。

当社の環境方針・環境経営レポートは一般に公開しています。

株式会社ジュンコーポレーションホームページ <https://www.jun-corporation.com/kankyo/>